

『あなたはだれですか？』 ヨハネの福音書 8章21～30節 2017.10.29(聖日礼拝説教より)

『モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな永遠のいのちを持つためです。』ヨハネ 3:14～15

イエスが、『あなたがたは下からの者…わたしは上から来た！』と言ったとき、ユダヤ人たちは尋ねた『あなたはだれ？』。

❶「上げられた」とき(28節)…イエスが誰なのかは『上げられたとき』にわかる。民数記21章の出来事は、十字架の予表(ヨハネ 3:12～15)！民が荒野で神に逆らい、神からの「燃える蛇」で死者が続出し、モーセに執り成しを願った時、神は、高く掲げた青銅の蛇を『仰ぎ見る者は生きる』と告げた。その言葉を信じ仰いだ者は生きた。十字架も同じ！「人の子が上げられる」とは、イエスが十字架に上げられること、死者の中から上げられること、復活後、全ての救いのわざを終えて天に上げられたことを意味する！『わたしを信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬ(8:24)』とは、十字架・復活・昇天のイエスと無関係に生きてしまう者への警告である！信じない者は自分が神となり、本当の神を殺す(無視する)！しかし、人の罪と処罰が決定的になった時こそ、十字架は最も輝く！『光は闇の中で輝いている(1:5)』。十字架は、罪人への神の裁きを、神自ら代わりに背負われた救いの徴なのである。★私たちは、日々、神の救いを信じ、御心を仰いでいるだろうか？それとも神から遠い？

❷今が、悔い改めるとき(24節)…イエスがご自分を「エゴーエイミー(わたしはある／永遠に存在する)8:24,28」と名乗る時、「永遠に存在する」神であるわたしが「あなたと共にいる」と伝える！その神と自分が結ばれているかどうかは、『御心を行なっているかどうか』による(8:29)。「多くの者がイエスを信じた(8:30)」が、その彼らは、やがてイエスを十字架で殺す。神の警告を受けたラオデキヤの教会(黙示録 3:15～20)は、キリストを戸の外に追い出していた。信じたと言いながら、イエスと対話もなく、交わりもない！これが、「教会(家庭・職場・ご近所)」で起きている。「だから、熱心になって悔い改めよ」と主は戸を叩き続ける！本当の悔い改めは、昔やった！明日こそする！でなく、『今』、自分にこだわる人生から、神の御心を求める生活へ向きを変えること！神の御心とは、神の命令を守ること！そして、神の命令とは、唯ひとつ！『互いに愛し合うこと！』(ヨハネ 15:9～10)

★誰も裁かない！赦し合い、祈り合い、笑顔で交わる者同士となること！いつかしよう、明日ならう、ではなく、「今」主に向いて祈り求めよう！